

1.  $f: \mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}$  を  $f(x, y, z) := xy - z$  で定義し,  $S_f := f^{-1}(0)$  とおく.
- (1)  $S_f \neq \emptyset$  であることと, 任意の  $\mathbf{u} \in S_f$  に対し  $\text{grad}(f)(\mathbf{u}) \neq \mathbf{0}$  であることを示せ. 従って  $S_f$  は曲面である.
  - (2)  $\mathbf{u} = (a, b, c) \in S_f$  に対し,  $T_{\mathbf{u}}S_f$  と  $T_{\mathbf{u}}^{\perp}S_f$  を表す方程式をそれぞれ求めよ.
  - (3)  $T_{\mathbf{u}}S_f$  を,  $\mathbf{0} \in T_{\mathbf{u}}S_f$  が  $\mathbf{u}$  に移るように平行移動して得られる平面を表す方程式を求めよ.
  - (4)  $S_f$  の概形を図示せよ.
  - (5) 上の (1)~(4) と同様のことを, 以下の関数について考えよ.
    - (i)  $f(x, y, z) := y^2 + (z-1)^2 - 2$       (ii)  $f(x, y, z) := x - 2y + 3z - 4$       (iii)  $f(x, y, z) := x^2 + y^2 - z^2 + 1$
    - (iv)  $f(x, y, z) := x^2 + y^2 - z^2 - 1$       (v)  $f(x, y, z) := \frac{x^2}{4} + y^2 + \frac{z^2}{9} - 1$       (vi)  $f(x, y, z) := xy + z^2 + 1$
2.  $S^2 := \{\mathbf{u} \in \mathbb{R}^3 \mid |\mathbf{u}| = 1\}$  とする.  $V_z^+ := \{(x, y, z) \in S^2 \mid z > 0\}$  とし,  $\mathbf{u} \in V_z^+$  の近くの局所座標  $\varphi: D^\circ \rightarrow V_z^+$  を次のように取る:  $D^\circ := \{(s, t) \in \mathbb{R}^2 \mid s^2 + t^2 < 1\}$ ,  $\varphi(s, t) := (s, t, \sqrt{1 - s^2 - t^2})$ .
- (1)  $\partial_s \varphi := \frac{\partial \varphi}{\partial s}$  などと略記する.  $\partial_s \varphi, \partial_t \varphi$  を計算せよ.
  - (2)  $\mathbf{u} = (a, b, c) \in V_z^+$  とする.  $\varphi(s, t) = \mathbf{u}$  となる  $(s, t) \in D^\circ$  を求めよ.
  - (3) (1), (2) を使って,  $T_{\mathbf{u}}S^2, T_{\mathbf{u}}^{\perp}S^2$  を表す方程式を求めよ. また,  $\mathbf{0} \in T_{\mathbf{u}}S^2$  が  $\mathbf{u}$  に移るよう  $T_{\mathbf{u}}S^2$  を平行移動して得られる平面の方程式を求めよ.
  - (4)  $\mathbf{n}: V_z^+ \rightarrow \mathbb{R}^3$  を,  $\mathbf{u} \in V_z^+$  に対し,  $\varphi(s, t) = \mathbf{u}$  となる  $(s, t) \in D^\circ$  を選んで  $\mathbf{n}(\mathbf{u}) := \frac{(\partial_s \varphi \times \partial_t \varphi)(s, t)}{|(\partial_s \varphi \times \partial_t \varphi)(s, t)|}$  で定義する.  $\mathbf{n}(\mathbf{u}) \in T_{\mathbf{u}}^{\perp}S^2$  を示せ. また  $\psi: D^\circ \rightarrow V_z^+$  を  $\psi(s, t) := (t, s, \sqrt{1 - s^2 - t^2})$  で定義し,  $\tilde{\mathbf{n}}: V_z^+ \rightarrow \mathbb{R}^3$  を,  $\mathbf{n}$  の定義中の  $\varphi$  を  $\psi$  で置き換えることにより定義する.  $\tilde{\mathbf{n}}$  は  $\mathbf{n}$  と逆の向きを定める, 即ち  $\tilde{\mathbf{n}} = -\mathbf{n}$  が成り立つことを示せ.
3. 円柱座標  $(r, \theta, z)$  で  $\{(r, \theta, z) \mid (r-2)^2 + z^2 = 1\}$  で表されるトーラスを  $T$  とおく.  $\varphi: U := (0, 2\pi) \times (0, 2\pi) \rightarrow \mathbb{R}^3$  を,  $\mathbb{R}^3$  の  $xyz$  座標で  $\varphi(\alpha, \beta) := ((2 + \cos \alpha) \cos \beta, (2 + \cos \alpha) \sin \beta, \sin \alpha)$  で定義する.
- (1)  $\varphi(U) \subset T$  であることを示せ.
  - (2)  $\varphi$  は単射であること,  $D\varphi$  は常に階数 2 であることを示せ.
  - (3)  $\mathbf{u} = (a, b, c) \in \varphi(U)$  に対し,  $T_{\mathbf{u}}T$  と  $T_{\mathbf{u}}^{\perp}T$  をそれぞれ求めよ.
  - (4)  $f(x, y, z) := (x^2 + y^2 + z^2 + 3)^3 - 16(x^2 + y^2)$  に対し  $T = f^{-1}(0)$  であること (6/22 の講義, 演習を参照のこと) を用いて,  $\mathbf{u} \in T$  に対し  $T_{\mathbf{u}}T$  と  $T_{\mathbf{u}}^{\perp}T$  をそれぞれ求めよ.
4.  $\Omega \subset \mathbb{R}^2$  を開集合とし,  $f: \Omega \rightarrow \mathbb{R}$  を  $C^\infty$  級関数とする.  $f$  のグラフは向き付け可能な曲面であることを示せ.
5.  $\varphi: (-1, 1) \times [0, 2\pi] \rightarrow \mathbb{R}^3$  を  $\varphi(t, \theta) := ((2 + t \cos(\theta/2)) \cos \theta, (2 + t \cos(\theta/2)) \sin \theta, t \sin(\theta/2))$  で定義し, その像を  $M := \varphi((-1, 1) \times [0, 2\pi])$  とおく.
- (1)  $M$  を図示し,  $M$  はメビウスの帯であることを確かめよ.
  - (2)  $U := (-1, 1) \times (0, 2\pi)$  に対し,  $\varphi: U \rightarrow M$  は単射で,  $D\varphi$  の階数は常に 2 であることを示せ.
  - (3)  $\mathbf{u} = \varphi(t, \theta)$  ( $(t, \theta) \in U$ ) に対し  $\mathbf{n}(\mathbf{u}) := \frac{(\partial_t \varphi \times \partial_\theta \varphi)(t, \theta)}{|(\partial_t \varphi \times \partial_\theta \varphi)(t, \theta)|}$  とおくと, 問題 2 (4) と同様に  $\mathbf{n}(\mathbf{u}) \in T_{\mathbf{u}}^{\perp}M$  である.  $\lim_{\theta \downarrow 0} \mathbf{n}(\varphi(0, \theta))$  と  $\lim_{\theta \uparrow 2\pi} \mathbf{n}(\varphi(0, \theta))$  を比べよ. このことから  $M$  は向き付け可能ではないことを示せ.

(提出の必要はありません)

補足. 曲面  $S$  上の点  $\mathbf{u}$  における接平面  $T_{\mathbf{u}}S$  は  $\mathbb{R}^3$  内の 2 次元部分ベクトル空間で, 特に  $\mathbf{0} \in \mathbb{R}^3$  を必ず通ります. 気持ちとしては,  $\mathbf{0} \in \mathbb{R}^3$  が  $\mathbf{u}$  にうつるような平行移動  $\mathbb{R}^3 \rightarrow \mathbb{R}^3, \mathbf{x} \mapsto \mathbf{x} + \mathbf{u}$  により  $T_{\mathbf{u}}S$  を平行移動して得られる平面  $H$  (これは  $\mathbf{u}$  を通る) を接平面とよびたいのですが, これはベクトル空間にならないという欠点があります.

パラメータ  $l$  で表される正則曲線  $L$  の場合は,  $\mathbf{u} = \mathbf{l}(t)$  を通り  $\mathbf{w} := \frac{d\mathbf{l}}{dt}(t)$  に平行な直線を  $\mathbf{u}$  における接線とよびました. これは上の話の  $H$  に対応します. 話に整合性を持たせるためには,  $\mathbf{w}$  を基底とする 1 次元部分ベクトル空間  $T_{\mathbf{u}}L := \langle \mathbf{w} \rangle = \{\mathbf{x} \in \mathbb{R}^3 \mid \mathbf{x} = k\mathbf{w}, \exists k \in \mathbb{R}\}$  を「接線」とよぶほうがよかったかもしれませんが, 実際に  $L$  に接しているのは前者なので, 悩ましいところです.

幾何入門レポート問題 10 (2018 年 6 月 29 日)

担当：境 圭一

各自の学籍番号の下 4 桁の数を 3 で割った余りを  $a$  とおく．例えば 17S1076 $\alpha$  なら  $a = 2$ , 17S1101 $\beta$  なら  $a = 0$ .

$S := \{(x, y, z) \in \mathbb{R}^3 \mid x^2 - y^2 + z^2 = 1\}$  は曲面である (証明不要)． $\mathbf{u} = (p, q, r) \in S$  における接平面  $T_{\mathbf{u}}S$  が  $\mathbf{n} := (a, 2, 3)$  と直交するとき,  $\mathbf{u}$  を求めよ．

(7/6 の 3 限開始時まで提出してください)

[http://math.shinshu-u.ac.jp/~ksakai/18\\_geometry/18\\_geometry.html](http://math.shinshu-u.ac.jp/~ksakai/18_geometry/18_geometry.html)